食事も体調管理も一切させない

# 羽生結弦(28) 完無視された嫁の追い出し部屋

異様な結婚 全真相

# 新NISAで2000万円叶える

人気&急成長 銘柄ランキング20

# 年金生活天国と地獄 分ける「19万円」

22才お誕生日のリアル

# 愛子さま(21)「皇族の悲恋」に没頭されて

大谷翔平(29) カッコカワイイ2024カレンダー

名物市長・町長イチ押し ふるさと納税 7

Sexy Zone 4人の輝きスペシャルピンナップ

特別価格480円 12月14日号

# 女性セブン

Snow Man 宮舘涼太(30) 幸せな撮り下ろし

西城秀樹さん(享年63) 長男(20)デビューへ 初告白「父への愛、尊敬、後悔」

神田正輝(72) 激やせ入院 悔やむ病院嫌い

冷えは万病のもと!

体の冷え4タイプ別 末端 下半身 内臓 全身 ポカポカ習慣32

新連載 最初の晩餐 第2回 大地真央(57)

シニア女性の自殺が多い本当の理由

認知症より怖い 老人性うつ

超簡単 ワンパン×ホットサラダ

山下智久(38)と赤西仁(39) 中国生配信の誤算

西川史子(52) 再発の脳出血 懸命リハビリ

ブギウギ 水川あさみ(40) 台本無視号泣

百恵さん(64) 愛されキルト に熱視線

Before → After 目の下 クマ取り王の若返り神ワザ

大人気 ヘルシーカップ麺は本当にヘルシーか

91才の映画監督・山田火砂子さん 女の一生は愛と怒りでできている

6時半起床 必ずフルメーク 毎日自炊 23時15分就寝 入浴時の体操 ほか 大公開

100才現役ビューティーアドバイザーの スゴすぎるルーティン

# 西川史子52 再発の脳出血 懸命リハビリの「戻ってきて…」

## 半年前からSNSがストップ。大学院も休学して——

父の悲痛告白

才色兼備な高飛車キャラが懐かしい。

これまで多くの著名人が入院している。

瀬戸際

数年前まで、バラエティー番組に欠かせない存在だった西川史子がお茶の間に姿を見せなくなって久しい。医師という職業を生かしながら毒舌でならしていた彼女が、第二の人生を歩もうとしていた矢先に立ちはだかった高い壁は——

会食に杖を持って現れたことも。（写真は西川のインスタグラム）

「奇跡の病院」と呼ばれることもあるその施設には、明るく広々とした廊下が広がり、アート作品がいくつも展示されている。ふと目をやると視界に入る風流な光景に、入院患者らは口元を緩ませる。

ここは**「寝たきりにさせない」**をモットーにする回復期リハビリテーションの専門病院である。これまで数多くの著名人を〝再生〟させたその病院で現在、必死にリハビリに励んでいるのが、医師でタレントの**西川史子（52才）**だ。

**「西川さんがここに入院してから約半年が経ちました。この間SNSはストップしてしまっていますが、食欲もあり、お話も楽しそうにしていて元気です。ただ、かなりおやせになりました。**もともとふくよかとは言えない体形でしたけど、お見舞いに来るかたがびっくりされることも多いようです」（西川の知人）

時には毒舌とも言える発言で世間を賑わせながらも、常に独自の視点を持ち合わせていた西川。すっかり表舞台から姿を消した美人女医に何が起こったのか——

＊

入院を余儀なくされたのは、立っているだけでも汗ばむ今年の初夏のことだった。前出の西川の知人が語る。

「自宅で倒れていたところを関係者が発見して病院に搬送されました。彼女は一昨年も同様に救急搬送されましたが、どうやら同じ病気が再発してしまったようです」

'21年8月、彼女が脳出血で倒れたのも同じく自宅だった。

「勤務先の病院に出勤せず、連絡が取れなかったのでマネジャーが警察の立ち合いのもと自宅に入ると、リビングで倒れている西川さんを発見した。そのときは入浴後に異変を感じ、立てなくなったとのこと。**病名は『右脳内出血』**で、5時間に及ぶ緊急手術を受けました」（芸能関係者）

くどうちあき脳神経外科クリニック院長の工藤千秋医師が解説する。

「脳出血は脳の血管が破れて出血する病気で、基本的に生活習慣病などで動脈硬化が進んだ人に生じやすい。また、一部には生まれつきなりやすい体質の人もいます。出血量が多い場合は西川さんのように緊急手術を行っても、術後に手足が動きづらくなったり、呂律（ろれつ）が回りにくいなどの後遺症が出ることがあります。通常、手術後は数か月程度のリハビリが必要です」

西川の緊急手術は成功に終わったが、入院は4か月に及んだ。彼女は'21年12月に更新したインスタグラムで長期にわたる入院生活を終えて退院したことを報告し、後遺症についてこう述べた。

**《左半身の麻痺（まひ）はまだ完全によくなってはいません。当初はほとんど動かなかったのですが、リハビリによって身の回りのことは自分でできるようになりました。**まだまだ不自由はありますが、今の自分の身体をしっかりと受け止め、医師として向き合いながらさらに身体機能の向上を目指してまいります》

退院後も「不自由」な生活が続き、それは西川を打ちのめした。前出の西川の知人が語る。

「左半身に麻痺が残ったことで日常生活に支障が出るようになりました。たとえば、**洋服をひとりで着るのも時間がかかってしまうし、軽いものを持ち上げることも難しくなった。日によっては歩行がままならないときもありました。**



病気になるまでは、バリバリと仕事をこなしながら、気が向けば豪快にショッピングを楽しみ、連日パーティーや会食をこなすという華やかな生活を送っていた彼女にとっては本当につらい日々が続き、神様に『これ以上私をいじめないでください』と何度もお願いしたそうです」

**「主治医から時々連絡が来て…」**

西川は20代の頃から「ミス日本の美人女医」との触れ込みでタレントとして活躍。

「相手男性に求める年収は4000万円以上」と言い切り、歯に衣着せぬコメントを乱発する「毒舌キャラ」で人気を博し、テレビ番組に引っ張りだこだった。私生活では'09年に元葛飾区議会議員で実業家の福本亜細亜氏と結婚し、翌年ホテルオークラで盛大な結婚式を挙げたが幸せは長く続かず、'14年に離婚した。

「完全主義の西川さんだけに妻の役割を完璧にこなそうとしたのです。一方で、結婚相手にも、理想の夫婦像を押し付け、息が詰まるような家庭になってしまった。早い段階で別居生活が始まりました。

華々しい人生を歩んできた彼女にとって離婚は大きな挫折となり、その後は体調を崩してふさぎ込む日が続きました。でもその果てに『やっぱり私は医者なんだ』と自分の〝生きがい〟に気づいたそうです」（前出・西川の知人）

'20年3月には13年間出演した『サンデージャポン』（TBS系）を降板。この頃からタレント業を控えて医師業に専念するように。そんな矢先に起きたのが最初の脳出血だった。

「心が折れそうになっても彼女は踏ん張っていました。そしてつらいリハビリを繰り返すうちに、自分と同じような境遇の人を救いたいという気持ちが日増しに強まり、'22年5月に職場復帰を果たしながら、同時にリハビリのドクターになるための勉強を始めたのです」（前出・西川の知人）

**50才を超えてからの努力が実り、昨年12月、西川は母校である聖マリアンナ医科大学大学院リハビリテーション科の試験に合格。**今年の春から大学院に入学し、新たな船出を果たした。

しかしその一方で、脳出血の後遺症は残っていた。

「一見すると元気そうでしたが、歩くのがつらそうなときがあり、杖を持って登校することもありました。また、西川さんは健康面、特に食事に気を配り、血糖値が上がらないよう砂糖の摂取を極力控えるなど、体によいといわれるものばかりを口にするようにしていました」（前出・西川の知人）

思うようにならない体の不自由さを抱えながら「第二の夢」に向かって邁進していた彼女を襲ったのが、今年6月の脳出血の再発だった。

工藤さんが指摘する。

「一度出血したのちに生活習慣が乱れたり、高血圧の状態が続くと、脳出血が再発するリスクがあります。再発を繰り返すほど呂律や手足の運動状態などの回復が悪くなり、1度目の出血より長期のリハビリが必要になる傾向があります」

いまの彼女はどのような状態か。西川の父親に取材をするとこう答えた。

**「6月に症状が出て、いまもずっと入院したままです。主治医から時々連絡が来て、一応順調に回復しているらしいけど、片方（半身）のいうことがきかないから大変でしょうね…。いまもずっとリハビリを続けているようです」**

苦境にありながら、大学院にはまだ在籍しているという西川。

「周囲は、『もう一度医療の現場に戻ってきて』という思いを持っているようですが、簡単ではありません。ただ、彼女も諦めてはいないはず。大学院は休学したまま、復帰できる日を見据えてリハビリの日々です」（前出・西川の知人）

決して病魔に屈しない——西川の懸命な闘病は続く。